福本 和来
Fukumoto Kazuki

真庭人
MANIWABITO

できることからやってみた自分の挑戦

中国勝山駅に静かにたたずむカプセルトイがあります。「まにわガチャ」と呼ばれるこのカプセルトイに500円玉を2枚入れ、ハンドルを回すと出てくるのは、ちょっと大きめのカプセルです。

「真庭に来た人が、ドライブだけで帰っちゃったら、もったいない。ちょっと寄って、ちょっとお土産を買って帰れる無人販売ってできないかなって思ったのが始まりなんです」と話すのは、まにわガチャの仕掛け人の1人、福本和来さん。

「日頃やっている仕事だけじゃなくて、自分の挑戦を何かしないと、と思っていたんです。小さなことかもしれませんが、これなら自分たちでできるんじゃないかと、まにわガチャプロジェクトを始めたんですけど、やってみると思い通りにいかないことも多くて」と、福本さん。設置場所やカプセルの中に入れる製品のことなど、福本さんたちは試行錯誤の最中です。

地元で活動する人たちの助けになれたら

福本さんが真庭に帰ってきたのは5年前。「正直、賑わいや活力はなくなっているだろうと思っていました。でもそんなことなくて、いろんな人たちがいて、いろんなプロジェクトが動いていて、人材が多いなって思ったんです」。福本さんたちが初めてまにわガチャのカプセルに入れたのは、市内でわら細工をしている「わらじあーむ。」の作品でした。「自分たちで中身を用意するのもいいんですけど、地元で活動している人たちの助けになれたら…と思って」と話す福本さん。

今は、旭川荘真庭地域センターの協力を得て作った木工製品がカプセルの中に入っています。「プロジェクトに関わってくれる人が増えたらいいな」。福本さんとまにわガチャはさらなる出会いを求めています。

販売機も木材を使って作っています

カプセルに入っている木工製品

福本 和来さん（勝山）

1986年生まれ。勝山高等学校を卒業後市外へ。
12年後の2016年、30歳を機にUターン。
2020年に友人と2人で「小さなタネ研究所」として
まにわガチャプロジェクトを始める。

まにわびと 24 2021